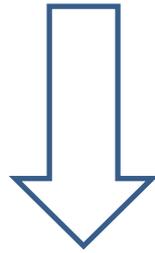


肝炎ウイルス感染者対策

～大分県立病院の取り組み～

HBs抗原陽性
または
HCV抗体陽性



臨床検査部より主治医へメールで連絡
(消化器内科以外)

対 象

2017年8月～2019年7月に大分県立病院を受診し
HBs抗原陽性またはHCV抗体陽性を指摘された症例で
以下を除く318例を対象とした。

1. 消化器内科受診
2. 消化器内科通院中
3. 小児科・新生児科で肝疾患として経過観察中

HBs抗原陽性 107例

HCV抗体陽性 211例

HBs抗原陽性

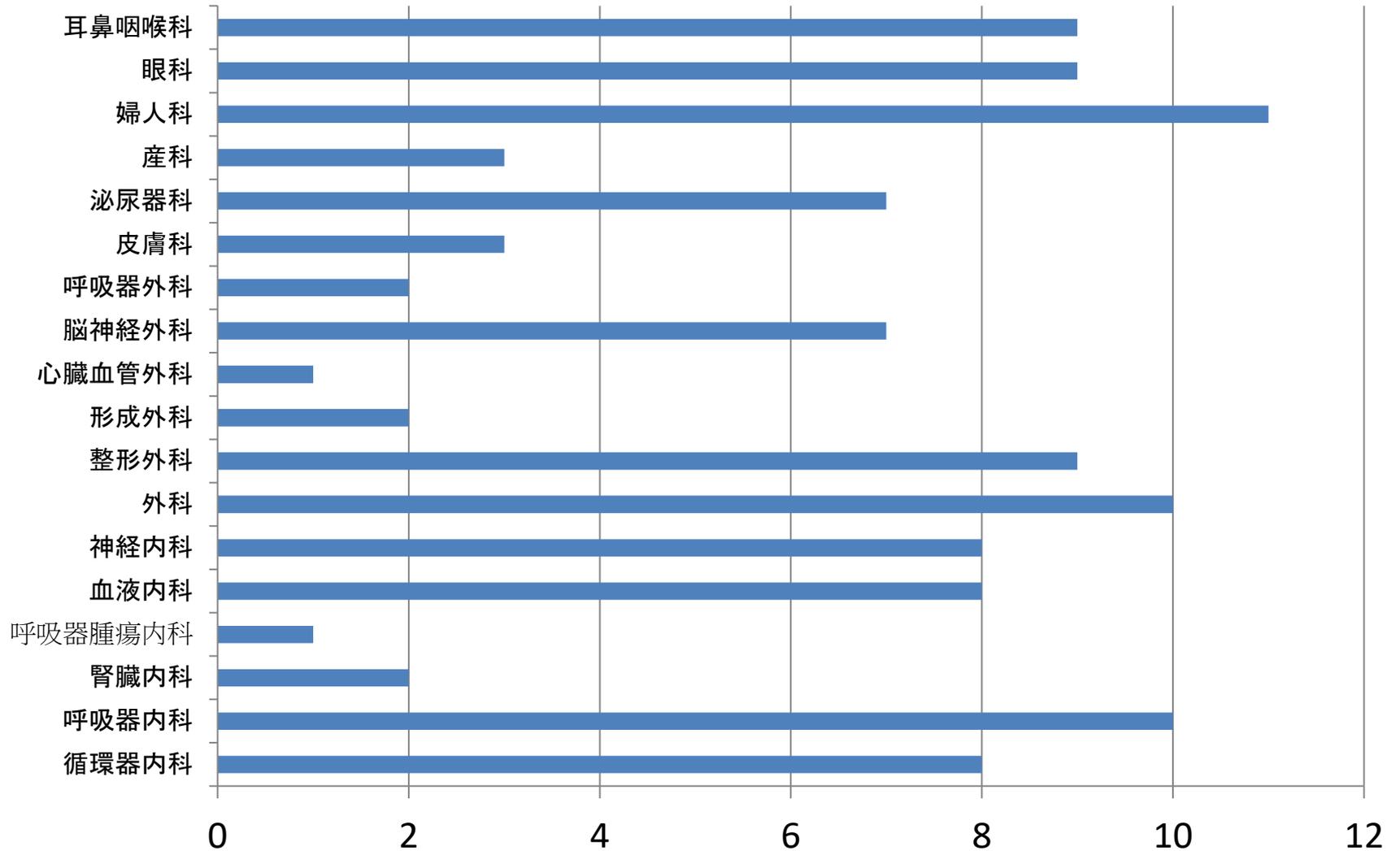
HBs抗原陽性(n=107)

男性/女性	45/62
年齢	67才(36才~93才)
前半/後半	57/50

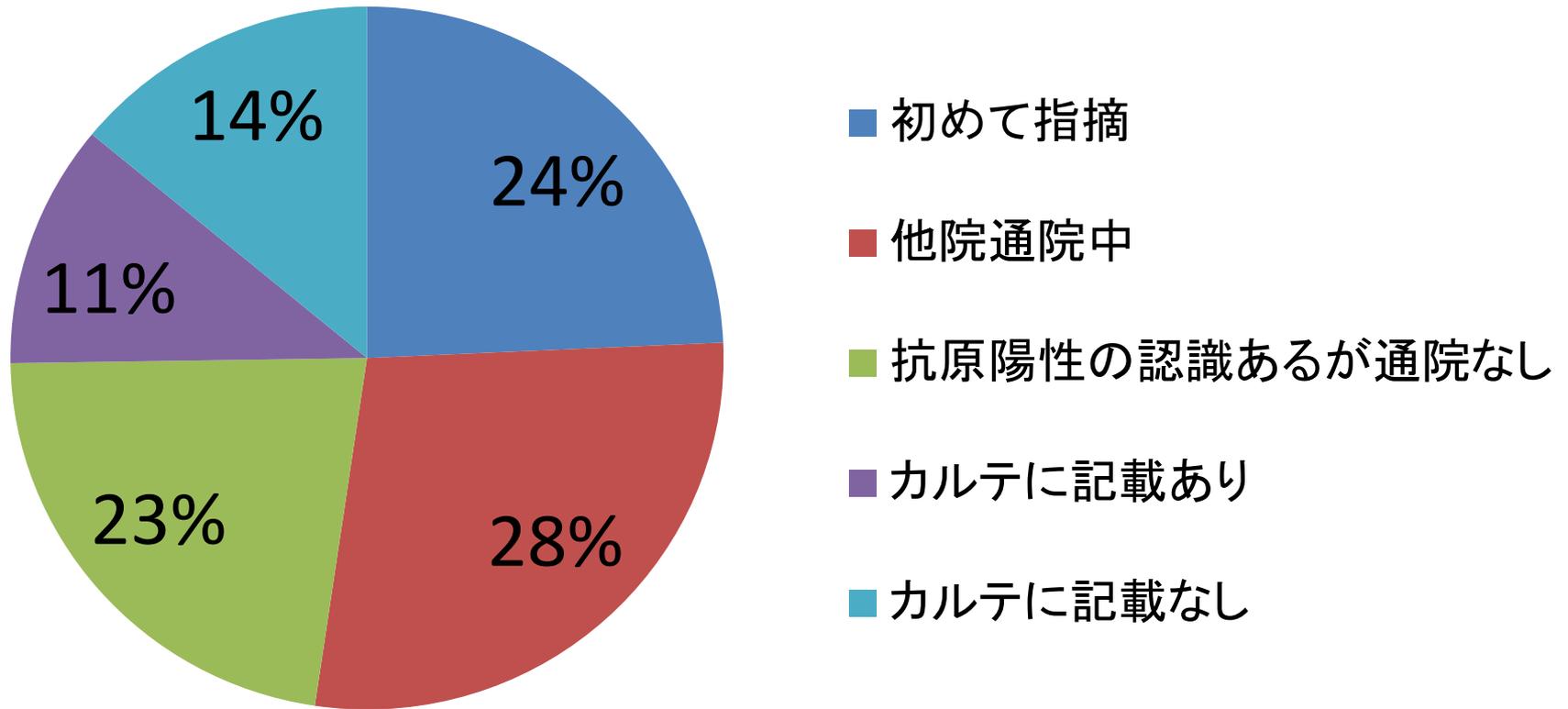
前半：2017年8月から2018年7月まで

後半：2018年8月から2019年7月まで

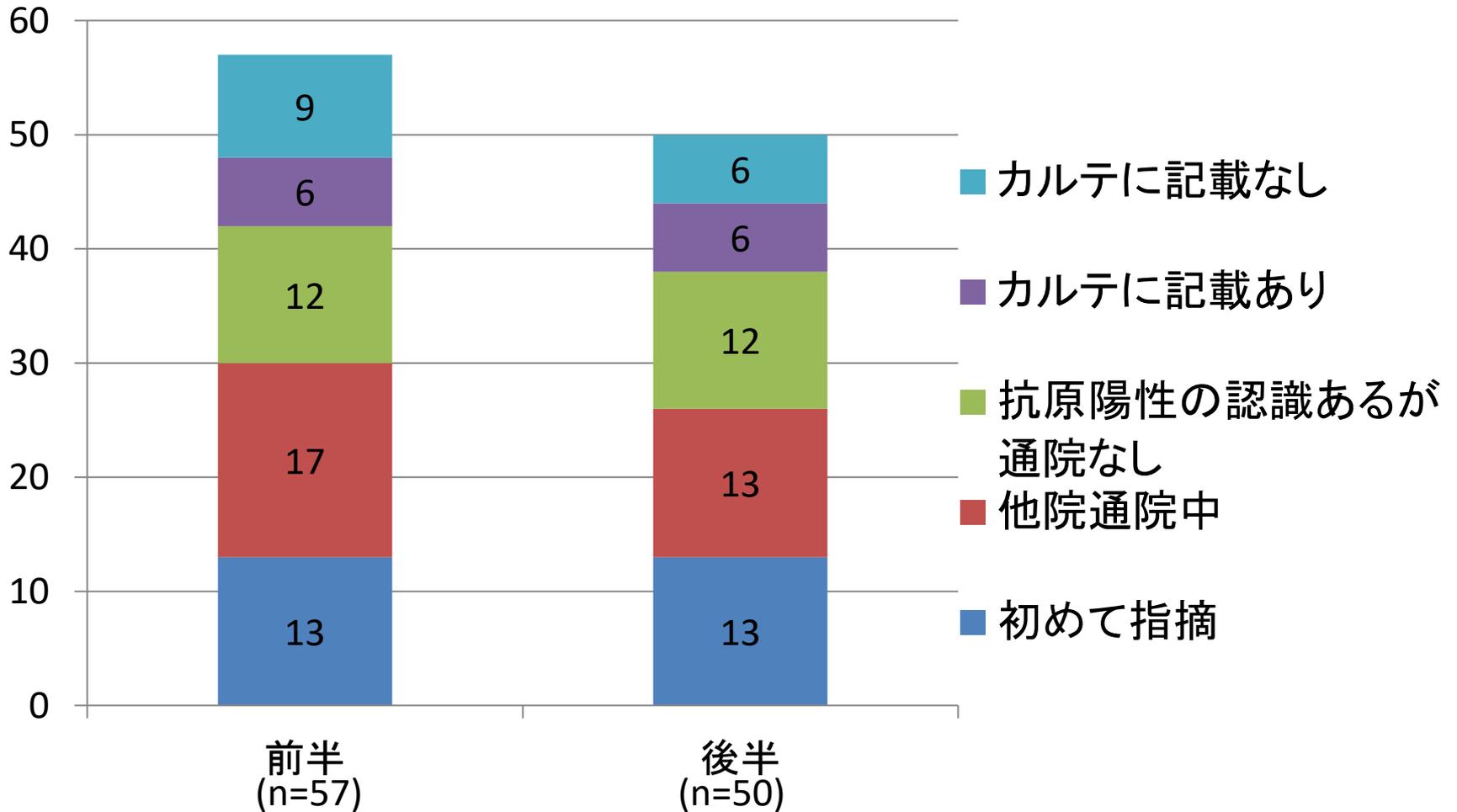
診療科別陽性者数(HBs抗原)



陽性判明時の診療状況（HBs抗原）（n=107）



陽性判明時の診療状況(HBs抗原)



初めて指摘 (n=26)

<u>消化器内科受診</u>	20	<u>その他</u>	6
キャリア	16	当該科で精査	2 (再活性化予防 1)
慢性肝炎	1	他院受診	2
再活性化	2	指導なし	1 (キャリア)
HCC	1	死亡	1

抗原陽性の認識あるが通院なし (n=24)

<u>消化器内科受診</u>	13	<u>指導なし</u>	11
キャリア	13	キャリア	10
(再活性化予防 3)		くも膜下出血後遺症	1

消化器内科受診

初めて指摘 20/26

他院通院中 3/30

陽性の認識あるが通院なし 13/24

合計 36例

キャリア 31 (再活性化予防5)

慢性肝炎 1

肝硬変 1

HCC 1

再活性化 2

まとめ (50/107)

核酸アナログ治療	8
HCC治療	1
経過観察	37
原疾患治療等	1
その他	3

他院通院中を含めると77例が受療

HCV抗体陽性

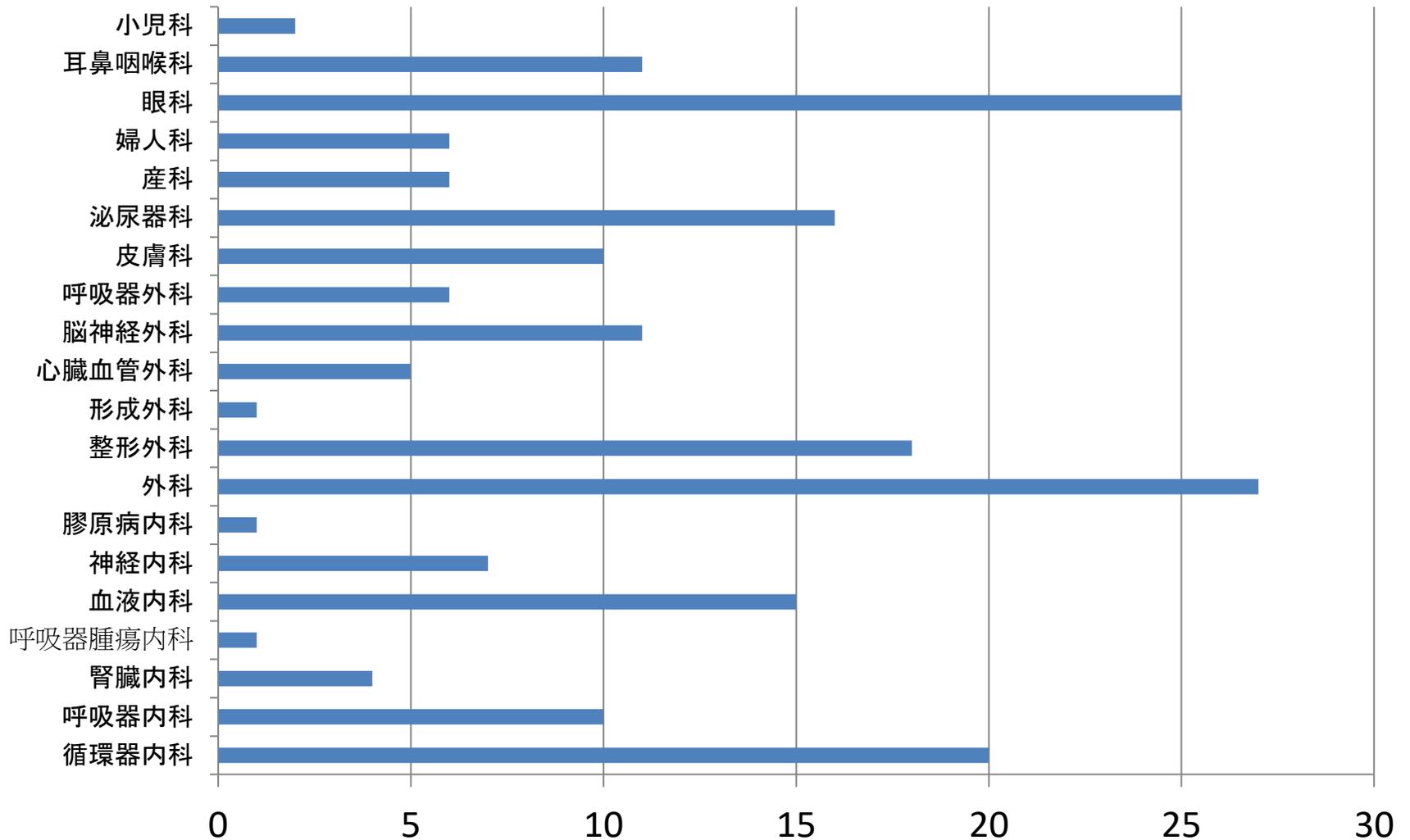
HCV抗体陽性(n=211)

男性/女性	98/113
年齢	73才(1才～95才)
前半／後半	106/105

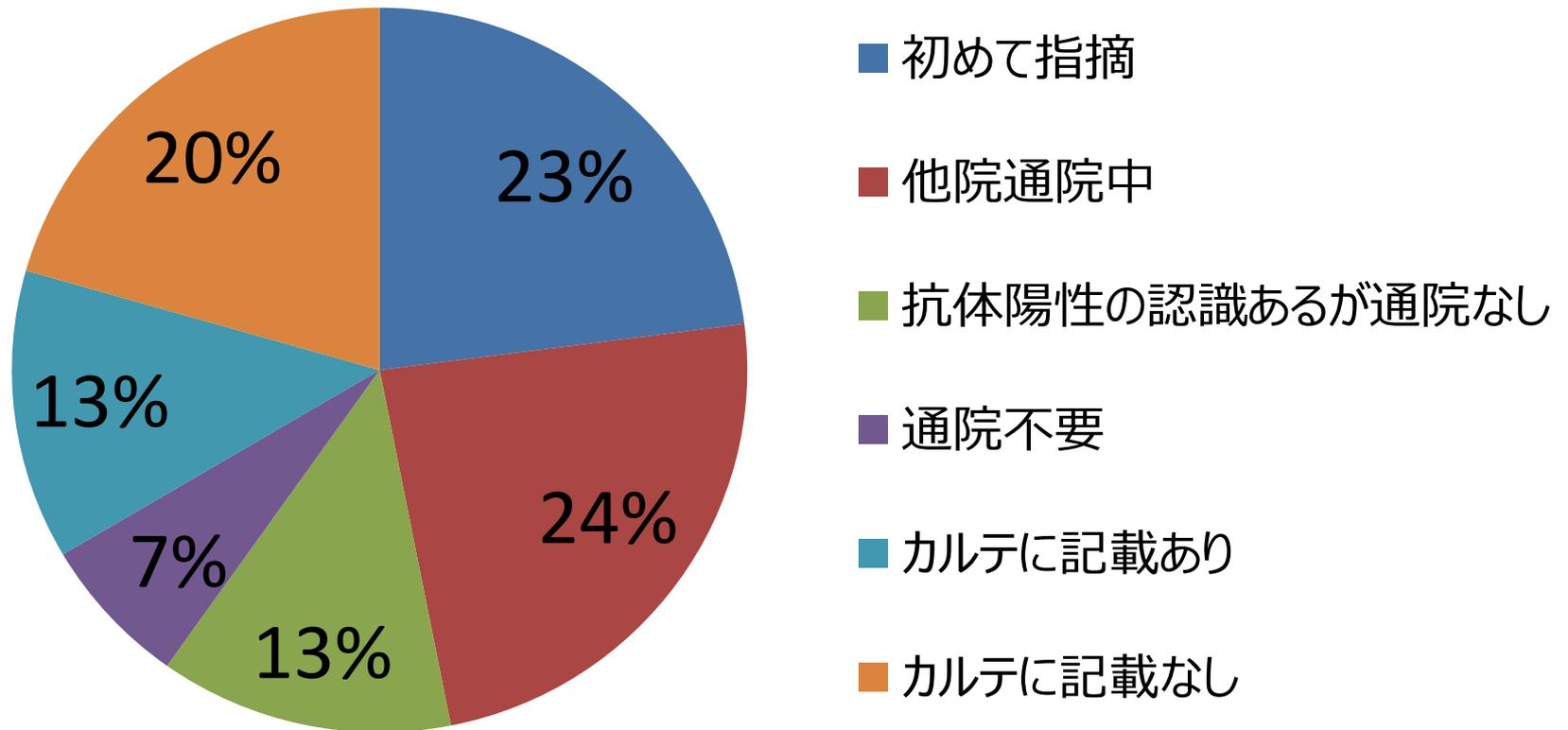
前半：2017年8月から2018年7月まで

後半：2018年8月から2019年7月まで

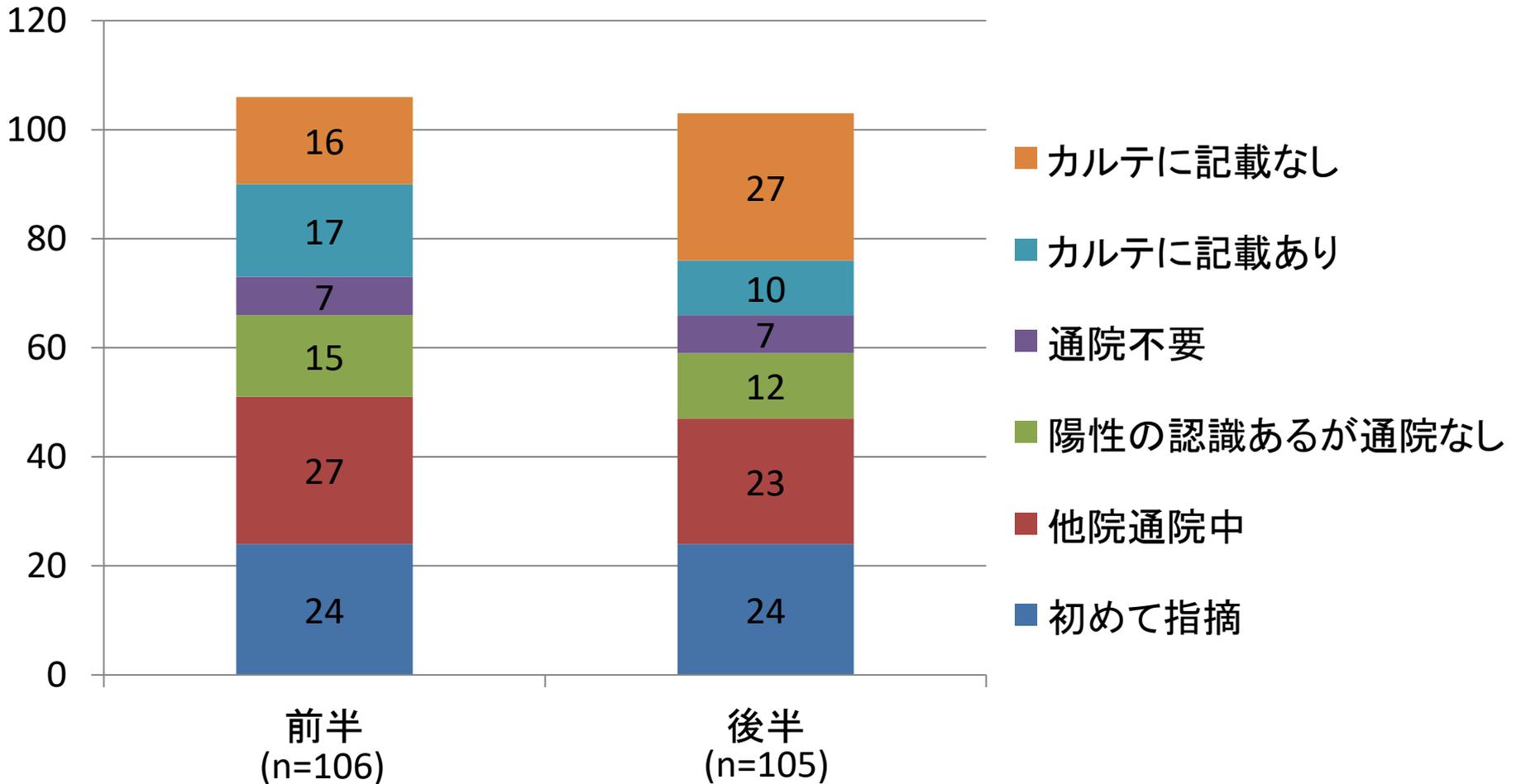
診療科別陽性者数(HCV抗体) (n=211)



陽性判明時の診療状況（HCV抗体）（n=211）



陽性判明時の診療状況(HCV抗体) (n=211)



初めて指摘 (n=48)

<u>消化器内科受診</u>	32	<u>その他</u>	16
慢性肝炎	11	当該科で精査	13(ウイルス陰性13)
肝硬変	3	他院受診	1
ウイルス陰性	18	受診せず	2



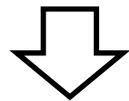
DAA治療 10

他院通院中 (n=50)

<u>消化器内科受診</u>	6
慢性肝炎	1
肝硬変	3
HCC	1
ウイルス陰性	1
	
DAA治療	2

抗体陽性の認識あるが通院なし (n=27)

<u>消化器内科受診</u>	<u>6</u>	<u>その他</u>	<u>21</u>
慢性肝炎	2	ウイルス陰性	15
HCC	1	適応なし・原疾患治療	3
ウイルス陰性	3	死亡	1
		指導なし	2



DAA治療 1

消化器内科受診

初めて指摘	32/48
他院通院中	6/50
陽性の認識あるが通院なし	6/27

合計 44例

まとめ (93/211)

DAA治療	13
経過観察	1
原疾患治療等	9
ウイルス陰性	64
その他	6

他院通院中を含めると137例が受療

HCV抗体陽性率について

- 当院での陽性率 347/14,462(2.4%)
複数回測定例は除く 303/12,708(2.3%)
- 消化器内科を除く陽性率 300/10,658 (2.8%)
89例は以前に陽性判明例

2017年8月から2019年7月まで2年間調査した。

院内スルー例としては救急診療の場合、
主科とオーダーした医師(当直医、研修医)が異なっており
十分なメール連絡ができていないこと、
また全身状態不良患者例が多かった。

各科各医師により、当科への対診に差がみられた。

今後の対応について、現在検討中です。